

ほたるの幼虫 放流会



家庭教育サポート企業として本の寄贈



北海道通信社記事

小学生にホタルに関する本寄贈

自然を愛する心育んで

網走工業がホタルの放流会で

【網走発】網走工業(株)は、二日、中山寿恵社長は、二日、網走市内で開催されたホタルの放流会において、網走市立西が丘小学校の子どもたちにホタルに関する本を寄贈した。中山社長は、「た〜くさん勉強して大事に育ててほしい」と話すとともに、故郷に誇りと愛情をもった人に成長するよう期待していた。

放流会を主催した網走西部地区資源保全協議会(上田 薫会長)は、子ども



捕獲や飼育、放流会、観賞会を展開している。網走工業では、網走建管が所管する卯原内川道単砂防工事を請け負ったのをきっかけに、放流会に参加。道家庭教育サポート企業等の取組として、児童向けにホタルの生態に関する図書を寄贈している。八年目を迎えた放流会には、協議会メンバーや西ヶ丘小児童、PTAをはじめ、取組を支える来賓や地元企業らが参加した。開会式では、上田会長があいさつし、ホタルが順調に定着していることを説明。来賓として参加したオホーツク総合振興局の野口恭延副局長は「この活動を通して、自然環境を大切にすることを育んでほしい」と呼びかけた。

このあと、本の贈呈式が行われ「写真1」を受け取った児童は「ありがた〜ございませ〜」と元気にお礼を述べていた。児童九人による、ホタルの詩の朗読に続いて、一千五百匹のホタルの幼虫を放流。子どもたちは、幼虫の入ったコップを手にもたせながら、二列に並んで、「きれいな光を見せてね」などと話しかけながら、やさしく放流していた。中山社長は「ホタルのすむ町」で育ったことを誇りに思っ〜てほしい」と述べ、子どもたちの健やかな成長を願っていた。今月下旬からホタルが池周辺を飛び回り、八月六日には観賞会が開催される予定。